

第 141 回（2020 年度秋季）大会手研究者優秀賞選考報告

1. 選考の経緯

・10月3日 第1回委員会

選考対象者リストを作成し、選考日程を決定した。

・10月12日 第2回委員会

締め切りまでに提出された 11 本のペーパーを対象に 1 次選考を行い、4 本を 2 次選考の対象とすることに決定した。

・10月17日 第3回委員会

2 次選考を行い、優秀賞対象者を決定した。

・10月18日 第4回委員会（メール審議）

報告文書の内容を確定した。

・10月24～25日 大会

2. 選考の結果

(1) 選考の結果（受賞作）

恩田直人「雇用率制度の適用外企業における障害者雇用に関する歴史分析」

(2) 選考の理由

本論文は、恩田会員の社会政策学会第 141 回（2020 年秋季）大会における発表用フルペーパーである。障害者雇用の法定雇用率制度の適用外企業が障害者を雇用する動機は何か、その場合の労働条件はいかなるものかについて、知的障害者が法定雇用率制度の適用外だった時期、具体的には 1960 年代から 1987 年までの知的障害者雇用の概況をいくつかの資料に基づいて整理し、その実態について論じている。

本論文の大きな特徴は、「障害者が低賃金で雇用され、搾取の対象であった」というような一般的な理解に立つのではなく、企業が障害者を労働力として認めていた可能性に注目して障害者雇用の「量」だけでなく「質」に注目すべきという結論を導き出していることである。企業が障害者雇用に自発的に取り組んでいる点を明らかにしていることに独創性が認められ、受賞作にふさわしいと判断した。

本論文における資料および出典の取扱いは適切であり、明確な問題意識を持って体系的に執筆されている。論旨も一貫していて読みやすいが、「企業が障害者を労働力として認めているにもかかわらず低賃金で雇用している」という筆者の解釈が従来から指摘されてきた搾取構造と質的にどう異なるのか、やや不明瞭である。また、「劣悪な労働条件は、実際にはそれほど多くはなかったと考えられる」という見解について、根拠を補足する必要がある。これらの点について適切な修正が行われれば、学術論文にふさわしい水準に達するものと思われる。

選考委員：熊沢由美、杉田菜穂、首藤若菜、田中聡子、山垣真浩